

(2) FD 集会（令和3年1月27日）

「本学のICTを活用した遠隔授業の実際と検討」

【企画の趣旨】

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努め、本学では、全学の授業について、前期のすべての授業を、遠隔で実施することとしました。これらは、事態の急激な変化に伴い、可及的速やかに対応されたので、予定された内容・方法等で実施されたとは言えない部分があります。

しかし、これら対応について、客観的に把握し、検証し、今後の学びに資することは、本学ならびに本学学生はもちろん、社会にとっても重要なテーマであると考えます。そのため、ICT教育基盤センターは、これら遠隔授業の実施について、すべての教員ならびに学生を対象に調査を行いました。

本FDは、これら調査の結果を集約するとともに、本学での遠隔授業がどうあるべきかを、実例を交えながら議論することを目的としています。

多くの教職員の皆様の参加を願っております。

【実施概要】

開催日：令和3年1月27日（水）

開催時刻：13:20～14:50

場所：愛知教育大学 第二共通棟 421室

開催方法：対面方式、Teamsでのオンライン方式

参加対象：本学教員・事務職員

集会タイトル：「本学のICTを活用した遠隔授業の実際と検討」

【プログラム】

時刻	時間	項目（タイトル）	担当者
13:00～		受付開始	
			司会：齋藤先生
13:20～13:25	5分	開会あいさつ	野田学長
13:25～13:35	10分	遠隔授業のアンケートの結果報告	江島先生
13:35～13:45	10分	他の遠隔授業の傾向と事例	山田初美氏(NTTLS)
13:45～14:00	15分	まなびネットの活用事例	梅田先生
14:00～14:15	15分	Teamsの活用事例	砂川先生
14:15～14:30	15分	動画作成の事例	松永先生
14:30～14:45	15分	質疑応答	司会：齋藤先生
14:45～14:50	5分	閉会あいさつ	中西 ICT 教育基盤センター長

【開催報告】

2021年1月27日 全学FD集会「本学のICTを活用した遠隔授業の実際と検討」を開催しました。

1月27日（水）、本学のICT教育基盤センター、教職キャリアセンターの共催で、教職員向けの全学FD集会「本学のICTを活用した遠隔授業の実際と検討」を開催し、対面およびオンラインあわせて約70人の教職員が参加しました。



全学FD会場（対面）の様子

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、本学では今年度は前期の授業を遠隔で実施しました。これらの対応について、学生・教員に実施した調査結果の報告と、本学での遠隔授業がどうあるべきかを実例を交えながら議論することを目的として、今回の全学FD集会は開催されました。

全学FD集会では、まず教育ガバナンス講座の江島徹郎教授より前期の遠隔授業について、学生・教員に実施した調査結果が報告されました。学生に対する調査では、遠隔授業そのものについては評価が高く、授業のうち6割くらいが遠隔授業でも良い、という結果が得られました。ただ、遠隔授業の方法別に調べると、オンデマンド型の遠隔授業の場合、動画・音声が含まれていない場合は、満足度が低いことが分かりました。これに対し教員に対する調査では、これから動画・音声を含んだ教材を使っていきたいという回答が多いことが報告されました。

続いて、本学ICT教育基盤センター研究員（NTT ラーニングシステムズ（株） 教育ICT推進部 教育ICT研究室）の山田初美氏から他大学や小中高の学校現場での遠隔授業の実態、情報教育講座 梅田恭子准教授からまなびネット（Moodleをベースとする本学の遠隔教育システム）の活用事例、国語教育講座 砂川誠司講師からMicrosoft Teamsの活用事例がそれぞれ報告されました。



事例報告の様子

さらに情報教育講座の松永豊教授から動画作成の紹介がありました。手近なソフトウェアで動画作成から、学生への配信までを行うことができるよう、PowerPointによる動画の作成、フォトによる動画の連結、Microsoft Streamによる学生への配信が紹介されました。

今回の全学FD集会に、参加者からは「ICTが得意でないので、動画で説明できればと思ったことがある。PowerPointで作れるならできそうだ」という感想がありました。また、報告者の一人である江島教授は「関心が高く、多くの参加者があつてよかったです。サポート体制が追い付いていないところがあったが、マニュアルも整備されてきた。来年度に向けて頑張ろうと思う」と話しました。

FD集会の様子

【司会（齋藤ひとみ氏）】 では、時間になりましたので、ICT教育基盤センター、教職キャリアセンター共催全学FD集会「本学のICTを活用した遠隔授業の実際と検討」について、開催をしていきたいと思います。

司会を務めさせていただきます情報教育講座の齋藤と申します。よろしくお願ひいたします。

まず初めに、開会の挨拶として、野田学長からお話をいただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

【愛知教育大学長（野田敦敬氏）】 皆さん、こんにちは。

ここに360度カメラがあるということです。

すみません、カメラの位置を調整していまして、もう一遍、改めまして、皆さん、こんにちは。

前期は遠隔授業をいたしまして、そこで様々な遠隔授業を行われて、試みていただいたことだと思います。ありがとうございます。

10月頃に出ました「令和の日本型学校教育」の構築を目指して、中間まとめですけれども、このポンチ絵の一番最初のところに、学習指導要領の着実な実施、その下にICTの活用と冒頭に来ておりまして、もう避けては通れない状況になっています。指導の個別化、学習の個性化が求められておりまして、その中で学校の働き方改革、それからGIGAスクール、これにもICTの活用は避けて通れない状況です。

先日、私が前学長の後を受けて参加しています国大協の教育・学生小委員会というものがあります。学長が10人ぐらいで構成しているんですけども、そこでもこれから大学教育の在り方ということで意見交換をしました。その中で、今後どういうFDをしていくかというような議論がございまして、その中でもちろん対面授業の方法は様々確立されているけれども、今、遠隔授業、ICTを活用した授業はこれからであるので、ぜひ大学間での情報を共有して、交流して、大学間でのFDもやつたらどうかと、そんな意見も出てきております。

それから、少し前までにアクティブ・ラーニングの取り組みもしてきたわけですけれども、学生に調査してみると、梅田先生方を中心にやってもらうとですね、その価値だとか効果は分かったけれども、自分がやれるかどうかは自信がないという結果が出ていますので、このICTの活用もきっと意義だとか効果は学生は分かっていると思いますけど、いかにそれが自分でできるようになるのかというのが課題じゃないかなというふうに思います。

今日、実は会場にはぱっと見まして、教員の皆さんが10人に満たないほど、スタッフの皆さんお見えですけれども、こちらのリモートのほうで50人近く、41人だそうですけれども、多分50人を超えるんじゃないかなと思いますけれども、なかなかICTを活用したFDらしいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。以上です。

【司会】 ありがとうございました。

では、早速進めていきたいと思いますが、先生方に1点お願いがございます。

今日のFDについての簡単なアンケートがございます。今、開催しているチームのファイルのところにそのアンケートのワードファイルがありますので、対面で御参加いただいている先生方は、今配付してあるほうに書いていただければいいんですが、遠隔で御参加いただいている先生方、よろしければそちらのほうをダウンロードして、記入していただいて、教職キャリアセンターのほうにメールで送っていただけるとありがたいです。よろしくお願ひいたします。

では、1件目の発表に入っていきたいと思います。

1つ目の発表は、遠隔授業のアンケートの結果報告ということで、江島先生からお願ひいたします。

「遠隔授業のアンケートの結果報告」

講師：江島 徹郎（教育ガバナンス講座）

皆さん、こんにちは。江島です。

今日、これから遠隔授業の動画の作り方を、後ほどほかの先生方が御説明いたしますけど、今日の僕の発表ですね。この後作った動画を流します。で、御覧いただけると思いますので、よろしくお願ひします。

あと、その中で前期に御協力いただきました遠隔授業についてアンケートの結果について御報告させていただきます。よろしくお願ひします。

愛知教育大学遠隔教育の実態把握のための調査。

愛知教育大学の江島徹郎です。本学のICT教育基盤センターICT教育支援部門を担当しています。共著者は御覧のとおりです。全てICT教育支援部門の教員またはスタッフです。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めるため、愛知教育大学は2020年度の前期の授業について、原則として全てを遠隔で実施しました。これらの対応について客観的に把握し、検証し、今後の遠隔授業などを含む学びの質の向上に資するために、全ての教員並びに学生を対象に調査を行いました。調査の日時は、いずれも2020年7月で、学内ネットによるアンケートです。

まず、学生について御報告いたします。

本学は、全ての学生がノートパソコンなどを持っております。また、キャンパス内の多くの教室で有線または無線LANが使用できます。ノートパソコンなどやLAN並びにまなびネットや学務ネットと呼ばれる学内ネットの使用について、全学必修の授業があります。

さて、本調査の対象となる人数は4,046人でした。回答者数は1,108人で、回答率はおよそ27.4%でした。

学生の受講における通信環境は、光ファイバーやケーブルテレビなどが多かったですが、一部環境がない学生がありました。どうやら下宿などをしている学生のようです。本学は、前出のようにノートパソコンなどを必携にしているため、ほとんどの学生がパソコンなどを利用して授業を受講しています。その通信状態は、おおむね悪くなかったようですが、一部の学生に環境がない場合などがあったようです。これは、下宿の学生が多いと考えられました。

そこで、予稿には載せていないのですが、後に近隣の下宿、アパートの大家様などに向けてインターネットの導入について御検討をいただけるような案内を出すことにしました。原案をICT教育基盤センターICT教育支援部門で作成し、実際には不動産業者などを紹介する生協様を通して、大家様などに御周知いただくことになりました。

さて、学生は多くの場合、レジュメなどを印刷しているようです。多くの学生がトナーやインク、プリンター用紙などを買い足しているようです。この項目については、事前に検討した際には不要ではないかとの御意見も多かったのですが、本調査の基になった大阪教育大学様の調査結果から、恐らく本学でも多いことが予想され、項目として残しました。

「毎回または時々印刷をしている」と答えた学生が7割程度に達しています。なぜこんなにも印刷しているのでしょうか。受講している授業は本学の方針でオンデマンドが基本です。また、一部の実習を伴う授業などが後期での開講となりました。そのため、前期では非開講となっています。

学生の満足度を見てみましょう。

オンデマンドでは、動画や音声ありの場合と比べて、動画や音声がない場合の満足度が低いことが分かりました。一方で、同時双方向型やメールなどによる課題指示の場合も満足度はそれほど変わりはありませんでした。もちろん対面の場合が満足度は最も高いようです。

まとめてみると、動画や音声を含まないオンデマンド型の授業が最も満足度が低いことが分かります。メールなどによる課題指示よりも、こちらのほうが低いことは驚きです。

また、学生が資料で困っていることは、データが重いことや印刷をミスすること、それにメモが書き込めないことなどがありました。

遠隔授業そのもので困っていることは、課題が多くて対応できないというのが一番多いです。今回の発表では省略していますが、自由記述を見ると、この課題の多さについて学生たちは強く記入しています。

遠隔授業そのものの感想は、時間割を気にしないでできることや、動画や資料を好きな回数だけ見ることができ、また自由だと感じることなどを評価することが多かったです。

また、学生は遠隔授業と対面授業の最適な割合として、6割ぐらいが遠隔授業でもよいと答えています。このことについて、1年生と上級生で結果が違うのではないかと考えて集計もしてみましたが、大きな違いはありませんでした。ただ、上級生のほうが若干遠隔授業の割合が高くなるようです。

最後に、学生の自由記述に基づいて自己組織化マップを作成すると、この図のようになります。

続いて、教員について見てみます。

対象となる教員の数は、非常勤講師を含めると1,450人でした。しかし、非常勤講師は後期のみ担当の方も多くおられる上に、御案内も徹底できなかったと思われ、あまり御回答いただけませんでした。実際の回答人数は225人です。ほとんどが常勤の教員でした。本学の常勤の教員は、大体250人です。

さて、本学は前期は在宅勤務を原則としていたのですが、自宅だけではなく、意外と大学に出校された教員も多かったようです。また、ほとんどの教員が光ファイバーなどの固定回線を用いていましたが、一部テザリングや出張先のホテル、自宅近くのWi-Fiなどを用いた教員もおられるようです。

また、まなびネットと呼ばれるムードルを使ったシステムを用いて、オンデマンド型の授業を行った教員が最も多かったようです。動画や音声を含むものを作られた教員も多かったですが、音声や動画を含まないものでやられた教員も多かったようです。

配信ツールは、もちろんまなびネットが一番多かったようです。なお、同時配信の場合、大学はOffice 365を契約している関係でTeamsを推奨しました。しかし、Zoomを使った教員も多く、恐らく非常勤などで使い慣れているということがあったのではないかと推測します。

教材の作成には、ワードやPDFを用いた教員が最も多かったです。やはり使い慣れているということでしょう。続いて、パワーポイントとなっています。

今後、遠隔授業について行っていきたいと思うものは、動画や音声を含むオンデマンド型教材で、動画や音声に挑戦したい教員が多いことが分かります。また、同時双方向型が続いている。

考察とまとめです。残念ながらマニュアルの不備や支援体制の不足を指摘する声もありました。しかし、現在の人的リソースでは、今回、これ以上の対応は難しかったのではないかと考えます。ICT教育基盤センターでは、前期が終わってから改めてマニュアルの整備に取り組みました。また、来月FDを行うことも計画しています。授業が進行中のときはとてもこれらを整備する余裕はありませんでした。

次に、学生も教員も、できれば動画や音声を用いた教材を希望していることが分かりました。しかし、今回で言えば、教員はほとんど支援の体制が整わない中、まずはワードやパワーポイントなどを使って、一生懸命に授業を運営していたと思われます。これらは紙がベースとなるため、多くの学生はそれを印刷していました。恐らく書き込みをするためでしょう。しかし、残念ながらこれらワードやパワポのみの授業は、学生の評価はあまりよくありませんでした。

一方、慣れない遠隔授業においては、学生の反応が分かりにくく、不安を訴える教員もおられました。ムードルでは、ログなどで学生の動きを確認できるのですが、さきのマニュアルの整備が追いつかなかつたこともあり、それを御存じな

かつた教員も多かったようです。そのため、こうした教員は、例えば出席の代わりに課題を出したりしたようです。このことは教員のコメントにもありました。また、逆に学生からは課題が多過ぎるというコメントとして見られます。

学生たちは、遠隔授業でも教員ほどには困っていないようにも見えます。まだ、コミュニティーが成立していないであろう1年生と2年生以上の上級生でも差があまり出なかつたのはなぜなのか。これは大きな疑問として残りました。検討していきたいと思います。

なお、本調査は、大阪教育大学が2020年5月に実施した「インターネットを活用した授業時間中の学習・生活調査」より多くの示唆を得ています。同大からは、とても多くの協力を得ました。岡本幾子理事、ヨシダケンイチ学務部教務課課長代理、そして尾崎拓郎先生ほか、同大の多くの皆様のおかげです。深く深く感謝を申し上げます。

本調査は、愛知教育大学ICT教育基盤センターICT教育支援部門が主導しました。同部門では、NTTラーニングシステムズ株式会社とのクロスアポイント制によるスタッフとの共同研究を行っております。

これで発表を終わります。御清聴ありがとうございました。

【司会】 江島先生、ありがとうございました。

質問などは最後にまとめて行いたいと思います。

では、引き続きまして、今、江島先生の御発表の最後に御案内がありました、本学にクロスアポイントでICT教育基盤センターの教育支援部門に出向されているNTTLSの山田さんから他の遠隔授業の傾向と事例ということについて御発表をいただきたいと思います。山田さん、よろしくお願ひいたします。

「他の遠隔授業の傾向と事例」

講師：山田 初美

(ICT教育基盤センター研究員/NTTラーニングシステムズ)

それでは、発表させていただきます。

ICT教育基盤センター研究員、またNTTラーニングシステムズ教育ICT推進部の山田が報告をさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

今回は、コロナ禍における遠隔授業の実態といたしまして、高等教育及び初等・中等教育の取組について、文部科学省の資料などを基にしながら、10分ほど御紹介をさせていただきます。

まず初めに、高等教育における遠隔授業の実態について、情報を紹介させていただきます。こちらは、文部科学省の資料を基に作成をしております。

まず前期授業、7月時点、コロナ禍第2波の辺りですね。の時点では、約4分の1の大学が全面遠隔授業を実施していました。そして、後期授業に関しましては、約8割の大学が対面授業、遠隔授業の併用に取り組もうとしていると9月時点で回答をしております。

特徴的なのが、後期になることによって、全面対面の授業がすごく増えて、元に戻ったというわけではなく、今回、対面と遠隔の併用の部分の割合が8割になっているというところが一つ大きな特徴だと考えられます。

では、この併用の割合というものの中訳について見ていきたいと思います。

この中で併用と言いつつ、ほとんど遠隔だと回答した割合が約20%、また3割対面、7割が遠隔だと回答した割合は約25%となりました。併用と言いつつほとんど対面だよとか、そういったことはなくて、遠隔についてもしっかりと比重を置いて取り組まれていたということが分かっております。

あと、この併用の考え方といたしましては、いくつか複数回答でアンケートを行っております。例えば、多人数の授業、多くの人が参加している授業については遠隔で実施しますと回答した大学が約3割、1つの授業に対して対面と遠隔の授業を同時に実施する。例えば中継をして、今のFDもそうだと思うんですけれども、中継をして同時に配信をするですか、もしくは録画をしてオンデマンドに配信する、そういうふうな同時の実施を5割の大学さんが検討していたということでございます。

また、この遠隔授業の質の確保というところに関しましても、日本の大学は様々な取組を全国で行っておりまして、約9割の大学が授業における双方向性、例えばTeamsですとかZoomのリアルタイムのオンライン会議のようなものですね。そのような双方向性の確保というところに留意をしていたことが分かっております。

また、約6割の大学が学生の意見を反映することに留意したというところで、今回、愛知教育大学さんで実施されたようなアンケート、そういったようなことをして学生の意見を反映するようにしているということが分かっております。

ここからは、簡単に各大学の事例について紹介をさせていただきたいと思います。

幾つかの大学でこういった遠隔授業、もしくは遠隔・対面のハイブリッド授業の取組が行われてまいりました。

例えば、山梨大学様におきましては、学生を少人数のグループに分けまして、習得内容に応じて遠隔と対面を組み合わせ実施したというふうに報告がなされております。また、関西国際大学に関しましては、対面・オンラインを学生自身が選択できるようにして、学生の気持ち、恐らく環境等の問題もあるだろうと思うんですけども、学生さんの状況に応じて判断できるように配慮をしたというところでございます。

また、こういったコロナによる学び方がどう社会を変えたか、変えるかというところをテーマに、教員、学生とグルー

でオンラインによる体験学習等にも取り組まれたということが分かっております。

愛媛大学様においては、グループワークの実施というところで、Zoom等を活用しながら、全体の説明、発表と、いわゆるチーム活動というものを切り替えながら実施をしたということが分かっております。

ほかにもオンライン版でのパワーポイントですとかを共同編集したりですとか、コメント機能を活用しながらディスカッション、そういうふうなグループワークについても取り組まれてきたということが分かっております。

また、名古屋大学様に関しましても、医学部において様々な取組がなされておりました。例えば授業資料を用いた事前学習の後、実際リアルタイム型の授業の中で学生から質問を受けるという反転授業を実施したりですとか、実際の臨床実習の中では、任意でのリアルタイム型のオンライン実習を実施するなど、様々な工夫がされていたというところでございます。

このように、高等教育で様々な取組がなされていたということが分かっております。

ここからは、簡単に初等、中等教育についての実態を御報告させていただきます。

今回、5月頃に緊急事態宣言が出た最初の段階では、約86%の小・中・高校が臨時休業を実施したということが分かっております。

臨時休業期間中はプリント配付等で対応しているところも多くあったとは存じますが、これに伴ってオンラインでの家庭学習ですとか遠隔授業の試みが今年一気に全国において様々実施されたということが分かっております。

では、実際にどのような事例があったかについて、簡単に御紹介をさせていただきます。

例えば、大阪市様の中・高においては、学校と生徒の関係というのを継続させるために、生徒との2者面談をオンラインで実施しておりました。特に気になる生徒の状況については、職員全体で情報共有をしつつ、生徒の心のケアやサポートに努めていたことが分かっております。なかなか今まで学校に毎日行って、先生や友達と顔を合わせるということができていたところが、どうしても家に閉じこもっていなければいけないので、こういった心のケアなどが非常に重要であるということが分かっております。

また、長野県様におきましても、同じように保護者や児童・生徒からの質問欄を設けまして、健康状態とともに保護者が抱えている悩み等についても収拾していたと。こういったメンタルのケアに取り組まれていたことが分かっております。

授業はどのように進めていたかといいますと、動画教材、学習教材等を活用したりですとか、学習動画の配信、また学習教材コンテンツの活用等を北海道、神奈川、宮城など、様々な教育委員会様で行っておりました。

特に、各先生方、各学校様にお力をお借りすることはもちろんんですけれども、教育委員会様が主体となってより使いやすい教材等を市のホームページなどで公開することで、こういったオンラインでの学習等を支援しているということが分かっております。

こういったオンライン指導をより効果的に進めるための取組としましては、例えば福島県新地町様においては、全児童に端末を貸し出して、オンラインの指導を行ったりですとか、また愛媛県の工業高校におきましては、分散登校により登校できない子に対して遠隔授業を実施したり、実技を伴う工業系の授業についてもオンライン会議や共同学習支援ツール等を活用して取り組まれていたということが分かっております。

ここまで、様々な取組がなされていたということについて御紹介をさせていただきました。

弊社は様々な教育委員会様といろいろお話をさせていただいて、こういった実態を耳にする機会が多くあるんですけれども、その中でもこういった学習を取り組む中で、まだまだ課題があるということも明らかになっております。

幾つか例を御紹介させていただきますと、例えばライブ配信型の授業、ユーチューブでの配信ということで、45分や50分間、ずっと映像を配信してしまいますと、どうしてもふだんの授業に比べて子供があきてしまう。長過ぎてもたない。子供が聞かなくなってしまうといったような課題を皆様お持ちだと聞いております。

また、ユーチューブですかNHK for Schoolなどでいい教材が、短い動画等が配信されていましたので、そういうものを見ておいてねというふうに生徒のほうにお伝えをしたとしても、なかなか観聴するだけの課題だと見なくなってしまう、適当に見てしまう、そういうことが課題だと言われております。どうしても見るに当たって意識づけがされていないと、どういう目的で何のために見るのかというところが分からないと、どうしても見る気力が起きないというところが課題として分かっております。

また、デジタルドリルの活用というところで、タブレットを用いて、様々なドリル学習等に取り組んでいる学校も多いんですけども、単にドリルを解くだけではなぜ間違えたのかの根本原因が子ども自身に分からない、解説を見ても理解できない、そういうような課題も出てきていると伺っております。

ここまででまとめを最後にさせていただきます。

こういったように対面授業、遠隔授業を併用する授業形態の取組というのが、高等教育、初等・中等教育を問わず、全国において始まっているということでございます。今もまさにコロナ第3波が来ておりまして、恐らく来年以降もこういった取組は続していくものと思われます。

今後、様々な学習形態を実現していくに当たって、先ほどお伝えしたような意識づけですか、授業設計というところについても、工夫が今後求められていくと考えられます。

ちょっと簡単に御紹介させていただきますと、クロスアポイント研究、弊社と愛知教育大学様との研究においても、例えば擬人化エージェント、こういったキャラクターですね。と動画の中で対話型でやり取りをするような教材を通じて、学習意欲の向上や学びやすさにいい効果が出ないかという研究を今年行わせていただきました。

今後、ＩＣＴですか動画教材、様々なことが教育の中に生かされることになりますので、そういう教材の工夫ですか、そもそも学習活動設計の工夫というものが今後も進められればと思っております。

お時間が参りましたので、以上とさせていただきます。ありがとうございました。

【司会】 ありがとうございました。

では、続きまして、本学で多くの先生が今年から使われている方も多いかと思いますが、まなびネットについて、多分本学で一番のマスターと私は思っているんですが、梅田先生から御発表をいただきたいと思います。

「まなびネットの活用事例」

講師：梅田 恵子（情報教育講座）

皆さん、こんにちは。

情報教育講座の梅田です。今、マスターと言われたのですが、そんなことは全くなくて、ただ江島先生がサーバーを立てられた、まなびネットと10年以上、15年近く前から使って、齋藤先生も含めて使っていますので、その使っている活用事例を御紹介させていただければと思っております。

まなびネットについてたくさん話すことはできるのですけれども、今日お話ししようかなと思ったのは2つに絞りました、1つはコースです。1つの授業の中をどういうふうに構成していくかということですね。対面からもずっと使っていましたので、対面とオンデマンドの違いとかちょっとだけあるので、それについてです。2つ目は、学生さんとやり取りをするというのは、多分課題の提出というのが多いと思うのですが、私は3種類のフォームを使っていますので、それについて活用例として御紹介できればと思っております。

まず、1つの授業のコースの基本的な私がやっている構成例なのですが、これが今年やらせていただいた教職大学院の授業です。どの授業も2つのパートに分けていて、一番上の部分と、あと各回の授業が続いている形になっています。

まず、この一番上の部分を見ていきたいのですが、これを拡大しますと、こういうようになっています。デフォルトではこのアナウンスと書いてあるところを書き換えているんですが、この一番上の掲示板を使って授業のお知らせをしています。

この設定はいろいろ変えられるのですが、アナウンスのまま使うと、それが受講生全員にメールで流れるような設定になっていますので、ここで各回の授業について、こうやって公開しましたよみたいなことを書くと、これが受講生全員に流れるようになっています。

もう一つ、これは多分オンデマンドだから始めたのですが、質問掲示板を同じように置いておいて、授業全体に関わることはここに流すように、最初の授業で受講生に告知します。こういうふうに授業に関係することを一々全員に言わなくても、質問してくれるとそれに対して返して、それが受講生全員に告知できるというのが、これがオンデマンドでは効果的だったかなと思います。対面だと、対面のときに質問が出るのですけれども、ということをやりました。

最後に、これは対面でもオンデマンドでもやっていましたけれども、授業の目標だとか予定だとか、固定化されたものは一番上のところに資料として置いておきました。ここが一番上になります。

各回の授業なんですけれども、その下にセクションという単位があるのですが、この1つのセクションを基本的には1時間の90分として構成しました。ただ、ちょうどここに持ってきてているのですが、2週間かけてやるようなものは、このように2週間まとめたりすることもあります。

オンデマンドと後期、対面とハイブリッドになったのですが、オンデマンドのときだけ使うとかではなくて、先程も言いましたが、対面のときも私はずっと使っていました。この授業では、9回目はこれだとオンデマンドですし、10回目と11回目は対面だったのですが、対面かオンデマンドに関係なくずっとこのように授業を1セクションずつ使っています。

オンデマンドの場合の1回の授業の構成ですが、まず講義映像をパワーポイントで作成して、多分このあと紹介があると思いますが、ストリームで配信しました。その下に参考資料を置いて、最後に課題の提出という構成になっています。これが対面のときはどうなるかというと、下の2つは一緒で、講義を対面でやっているので、講義映像がなくなるというだけでやりました。

ここまでがまなびネットを用いた授業の構成になります。

次に、課題の提出について御紹介したいと思います。

課題の提出ですが、私は3種類の方法を使っています。多分一番王道というか、皆さんのがよく使われると思うのは、この活動の中の課題というか、そのままですね、課題というタイトルのものです。それに加えて、ワークショップとフォーラムというのを使いました。

まず、課題ですが、先ほども言ったように、これが一番王道で、教師が学生さんが出したものを評価するというもので、設定もシンプルで、これは受講生の画面なんですかけれども、課題名とか課題の説明があって、提出期限を書いて、提出のファイル型式とか評点がどうであるということを書いて、示して、それに対して教員は出したものに対して評価をするという形です。これが一番分かりやすいのですが、教師対学生になるので、学生さんが50名いたらその50名分を全部教師1人が評価するという、1対50みたいなそういう関係になるので、提出したものを学生さん同士でシェアしたりとか、そういうことができないので、私はあまりこれは多用していません。

では、私は何を主に使っているかというと、先ほど言いましたワークショップとフォーラムです。これを使うと受講者間の相互評価も可能になります。また、相互評価の中に教師が入ることもできますし、どうしても別の評価をしたいというのであれば別づけもできますので、割と私はこれを使用しています。

このワークショップとフォーラムの違いですが、ワークショップはもともと相互評価を意識して作られているものです。フォーラムは相互評価をあまり意識しているわけではないので、ディスカッション、掲示板の機能、それを活用しているという形になります。

ワークショップのほうをまず説明しますと、相互評価をもともと意識して設定されているので、フェーズに分かれています。実はこれを使いこなすのはなかなかややこしいところは少しあります。それを具体的に御紹介しようと思うのですが、これだけのフェーズがあります。これでもう敬遠される部分はあると思うのですが、この内容を紹介しますと、まず最初に課題の設定があります。これは課題を出すのと一緒にです。どういうふうに課題を提出するかという設定があって、それに対して、これだと先週の水曜日の15時から今週までに課題提出というふうに決めたので、学生さんが課題を提出します。それに対して、課題の提出がそこで終わるのですが、次は相互評価ができるので、学生さん同士に課題を割り当てるというフェーズが必要になります。それをお見せしたいのですけれども、これは私のゼミ生にダミーで作ってもらったものなので、完全にダミーです。これが一応学生さんが作った課題を提出したところです。例えば、この方とこの方提出ないですけど、ダミーですので、サボっていたわけじゃないです。他の人の提出があります。この提出までは一緒にですが、この後どうやって課題を割り当てるかというと、提出を割り当てるというところにすると、こういう一覧表があるので、個人的に誰に割り当てるよという設定をここですることもできます。ですが、これはなかなか面倒くさいので、ほとんど使いません。基本的には、このランダム割当てというのを使うと、これだと提出当たりにどれだけ評価するかとか、評価者当たりにどれだけ評価しなさいと伝えるだけなので、例えば評価者当たりに2件ずつ評価しなさいと設定できます。また現在の割り当てはどうでもいいですが、参加者が何も提出できずに評価できるといつて保存をすると、こうやって勝手に保存をしてくれて、評価を割り当ってくれていて、評価フェーズのほうに行けば、こういうように勝手に1人が2つずつ評価するというのが出てきています。提出しなかった人も割り当てるというのをやっているので、課題は提出しなかったけど、相互評価には参加するというようなこともできるようになっています。

あと、先ほど言ったのですが、今提出を割り当てるときにンダム割当てをしたのですが、スケジュール割当てというのもあって、スケジュールを立てておけば、今私が手動でやったことが自動的にそのタイミングでやると割り当てるというようなこともやろうと思えばできます。

ここまで、今割当てをやりましたが、割当てをして、またこの評価期間を設けて、その後に最後に評価の期間が終わったら、成績評価をします。これも今お見せしますが、すごい簡単です。成績評価をして、学生さんが相互評価の結果を見

るという形になります。

これもダミーで作ってもらったのですが、一応こうやって相互評価をしている人としている人もいますけど、してくれたという形で10点とか入っていますね。こうやってこの評価を見てみると、クライテリアを使って評価をしているという形になります。この相互評価が終わったら、こここの成績評価にスイッチします。成績評価で何をしなければいけないかというと、ここで評定を再計算するというのを押すと、このように相互評価をしてくれた結果がぱっと出ます。あとはこれをワークショップを閉じるという形にすると、学生さんに公開されます。なので、あとは相互評価、先ほどのしてくれた結果も学生さんから見ると公開されていることになります。

ということで、ちょっとフェーズが複雑なのですが、これを利用することで、相互に評価をしていくことができますし、先ほど言いましたように、教員は全員分評価することができますので、教員も入りたければ入ることができます。これがワークショップの方です。

もう一つがフォーラムなのですが、これは先ほども言いましたようにディスカッション機能なので、相互評価用に作られているわけではないんですが、先ほどのワークショップは、誰が誰を割り当てるかというのをシステムとか教員が一方的に決めてしまうので、それ以外の人を評価したりとか、あともっと教室の中で全体で課題を共有したいというときにはこちらを使います。

あと、こちらが今年度のバージョンアップされたときから評価というか、評定ができるようになったので、それも使えるようになりました。

具体的にこのフォーラムというのはどういう機能かというと、最初のところにこうやって何かを書きなさいといって書いて、それに対して返信をして、例えばほかの人がこれに対してコメントをつけるみたいなことをこれまでやっているのですが、先ほど言いましたように、このディスカッションごとに点数をつけることが、今年度のバージョンアップからはできるようになったので、点数もこれでつけるようにしています。

この点数をつけるときに二通りあって、教員だけがこれを見て点数をつけるバージョンと、この一個一個に学生さんが点数をつけるということもできるようになりました。前者は結構設定は簡単ですが、後者はちょっと設定がここで説明するのはややこしいんです。フォーラムでの評価をお見せしますと、こんな形です。これもダミーでやってもらっています。ここの一一番上に提出してあって、これを見て、あと下にコメントをつけたり点数をつけたりしています。これ、今3と書いてあるんですけど、ここを押すと、ほかの子がこの人に対して何点をつけたかというのも分かります。平均にしているので、この平均値がここに7.3というふうに出ています。こちらは教員もつけることができて、例えば私がここに5とつけると、今平均ってすっと上がりましたよね。6.8になっていましたが、4になりました。私が今評点したというのが一番下に入っています。このように投稿に対してつけることができます。

この違いなのですが、先ほどもありましたけど、しっかりと相互評価をしたいときにはワークショップだと思います。フォーラムのほうは、全体的にクラス全員の課題を見て、興味あるものにコメントしてねとかいうときに使っています。

フォーラム機能を使っての課題の出し方としては、例えばなんんですけど、1つ目説明してくださいと書いて、その後にステップ1で提出された課題に対して、全体を見てコメントとか評価を任意でつけてね。ただし、2名以上として、全員2名以上のコメントが、少ない人にはちゃんとつくようにバランスを見て考えてねといつて出しています。これは、教職大学院とかでやると、2名以上といつても、皆さん5名、6名やってくれますので、お互いにすごくコメントができます。

この活用としてなんですけど、私が前期のオンデマンドしかできないときにやったんですけど、最初の自己紹介にこれを活用してみました。別に点数はつけなくてもいいんですけど、初めてこの機能がついたところなので、テストも兼ねて点数もつけてみてくださいといつてお願いしたんすけれども、こうやって見ていただきますと、すごいです。返信の件数がここに出ているんですけど、皆さん2名以上でやっているんですけど、9件8件とか、9件とか11件とかありますので、お互いに自己紹介をしています。これは私がしたやつをお見せしますと、一番上に私が紹介をしていて、これは一

緒にやった松永先生がしてくださっていて、ほかの受講生とかもコメントしてくださっています。

この時は、新機能のテストのために点数も試しに使ってみてくださいということで、やってもらいました。本当にオーデマンドしかできないときに、これを使って自己紹介をするのは意外といいかなと思いました。

最後に、もう一つこれを使ったメリットを言いますと、今の課題もワークショップもフォーラムも点数をつけてもらえると、この課題のところの評点というところを押すと、全員のつけてもらった評点が入るわけですね。これをエクセルで落とすことができますので、全部やることによって、授業が終わった後にこれを活用して点数をつけるのが楽になるかなと思います。

ということで、以上で私のまなびネットの活用方法について紹介を終わります。ありがとうございました。

【司会】 梅田先生、ありがとうございました。

私も結構ワークショップとか使ってやらせていただいている。時々間違ってしまって、学生から評価ができませんと言われたりもするんですけども、その辺はちょっと許してねという感じでやっています。

では、続いてはT e a m sですね。T e a m sも先生方、多くの方が使っていただいたかなと思いますけれども、そちらの活用事例について、砂川先生のほうから御発表をいただきたいと思います。よろしくお願ひします。

「T e a m s の活用事例」

講師：砂川 誠司（国語教育講座）

こんにちは、砂川です。

T e a m s を使った活用法まで話せる訳ではなく、一つの事例としてこんなふうにやりましたということの紹介です。まず、私は、T e a m s を遠隔になる前から使っていまして、どういう使い方をしていたかというと、研究室のゼミのチームをつくりっていました。これ自体は非常に個人的な事情で、子育てをしている時間を長くとっていると、学生と議論する時間が全然なくなってしまったので、少しオンライン上でも議論できる場所が取れないかなということで、始めたものです。オンライン上での交流が、教師が見ている場で行われるというのは、結構ハードルが高いみたいで、何とかして学生たちの議論がオンライン上で活性化していかないかなということを考えながら、ゼミを運営してきたわけです。幾つかチャンネルを研究室チームの中に作ったのですが、個々人の日常の共有みたいなチャンネルを用意することが、交流を活発にするようで、私のところは……（スクリーンを提示）。個人的な部分を見せていくことで、この場でも学生たちが交流していいんだというような雰囲気がつくられていって、そうした土台をもとに、実際には研究発表のチャンネルで議論をしたりとか、そういうことをしています。

こういうことをしていたのがベースにあって、それでT e a m s を使うと、ある種の交流的なやり方がオンデマンドの形でもできないかなということで、T e a m s を使ってみました。

実際の例としては、例えば1年生の授業、前期と全く同じやり方を後期も取っているのですけども、ずっと投稿を投げるだけです。全部文章を書いています。私がテキストを書いていると言つていいかなと思いますが、1つの投稿に1つの回を割り当てて、ちょっと長くなり過ぎることもあるのですが、そういう形で授業の内容を文章で示して読んでもらう。学生には課題を出していますので、その課題に対してフィードバックをしていくような形で、ある学生の意見を取り上げて、それに対しての議論めいたことをずっと文章で書いていく。読んでもらうということだけをずっと繰り返していく。1年生には、遠隔授業になって動画の授業がたくさん増えたようですけれども、文系だということもありまして、読んで考えてほしいということもあったので、こういう形にしています。

最初の江島先生の御発表だと、動画や音声を含まないオンデマンド授業の満足度が一番低いということでしたが、最近返ってきた学務ネットのアンケートを見ますと、そんなに満足度は悪くなかったみたいです。この授業だけのことかもしれません。何がそうさせているのか、学生にも直接聞いてみたのですが、フィードバックがちゃんとあるのがいいんだというようなことは言っておりました。学生の意見が取り上げられて、ああだこうだ言ってもらえて、それから授業が進んでいくというところ。

それと、全ての授業がというわけではないですけれども、動画の授業が多くを占めている中で、文章を読むだけでいいというのは、心理的に負担が少なかったというようなことは聞きました。自分のペースで読めるというようなことだと思います。動画だと、どうしてもすごく時間に縛られてしまうと。

あともう一つ、文字のみにして見せることの一つの利点としては、ゼミでやっていたことが影響しているのですけれども、T e a m s アプリを学生のスマートフォンに入れさせたんですね、全員に。そうすると、スマホで見られる。だから、普段ブログとかを読んでいるような感覚で読めるというので、少し心理的な負担、ハードルが下がったというようなことはありました。まなびネットを使っても同じようなことができるだろうとは思いますが、L I N E とか他のS N S の形態と似ているので、その近さが心理的なハードルを下げる原因のひとつになったのかなと思います。

文章の量ですが、1回あたりこれぐらい（スクリーンに提示）のテキストを用意しています。スマホで見るからかもし

れないですが、とても長いらしいです。本を読むとか、一つの論文を読むぐらいだと、これより圧倒的に文章は長いはずですが、これでも学生からは長い、もっと短くしてくれと言われ、だんだん投稿する文章は短くなっていました。前期から引き続き後期も1年生はこの形でやっています。ですので、私は1年生とは一つも顔を合わせていないということになります。

2年生以上ですが、文章形式でもそれなりに理解して課題を出してくれるということが分かりましたので、後期は少しそこから発展させ、また対面も可能という状況になってきましたので、対面とT e a m sとを両方でやっています。次の事例は、指導案を作る授業ですが、一般のチャンネルでは同じように投稿を出して、最初のほうはグループ決めがあつたりするので、私の文章を読んでもらうということと、学生同士でグループを決めたり、指導案に用いる教材を決めてもらったりというようなことをしています。

グループを決めてスケジュールを組んでいきますが、T e a m sが使いやすいのは、エクセルファイルを置くと、共通に書き込める黒板みたいなイメージで使えます。自分の名前を書き込んでグループを決めていくということをやり、そしてそれぞれのグループの発表の範囲も決めていきましょうというように進めました。この授業は、対面で参加するグループが6グループと非対面が4グループに分けましたが。教室に入るぎりぎりまでグループを考えると、6グループまで入れると。後期は教室の収容人数の半分が対面可能という状況でしたから、受講生の数をみると6グループまでは入れたので、順番に6グループずつ入っていきましょうというようにして、遠隔側には遠隔側の課題を用意してということです。

指導案を作ること自体は、各グループにプライベートのチャンネルを作つてあげました。だから、ほかのグループの内容は、学生同士は見えないわけです。自分のグループでは他の受講生に見られることなく、自分のグループの議論ができるという状態です。(スクリーンを見せながら)一生懸命やっています。T e a m sを使っているので、テキストでやり取りするだけではなくて、空いた時間を合わせて遠隔会議をやっているグループもあります。50分も遠隔会議をやってグループもありました。授業時間外ですが、演習系の授業だと授業時間外でグループ活動をしていることは今までもあったので、その部分が遠隔会議に置き換わったというようなことになるかなと思います。この授業は後期の授業なので、まだ進行中ですけれども、対面の機会が限られることにはなるので、対面に来たときの議論の様子は、遠隔になる以前より活発になりました。遠隔の課題だとなぜか一生懸命やるので、考えてきたことをベースに対面の場面にやってくるということがあるせいか、これまでよりも、いろいろと考えたことが共有される場面が対面の時間に見られるようになっています。

似たような形式を取っている3年生の授業も、グループを作つて授業をしているわけですけれども、3年生のほうは圧倒的に対面に来る機会を減らしました。同じようにエクセルファイルでグループを決めて、それぞれで検討をするということをやっていますが、対面の機会は1回だけです。3年生は教材をもとに問い合わせ立て、ほかのグループにその問い合わせを解かせてというようなことをやっています。学生同士が授業しあうというような形で、最初にグループ1、グループ2が問題を出し、その次の回は3、4のグループが問題を出します。ほかのグループの方々は解答を出して、と。後半は解答が採点されて返却されて、というようなスケジュール。各グループ15回のうち1回しか対面がありません。この授業は、対面の機会の価値を圧倒的に上げてみようと思い、それで、1回だけ対面に来られるということにしました。そうすると、そこまでの準備のことが、対面の機会ではぱっと花開かないかと思ったわけです。1回に2グループだけを対面として、1回あたり最大で16人(1グループ約8人)しか来ないのですけれども、これまでのグループでの検討と、ほかのグループからどのような解答が得られたかというような部分など、これまでよりも深い議論が対面で行われるようになっています。対面と遠隔とが両方できるというスタイルに今はなっているので、こんなやり方でT e a m sを使ってみましたということの紹介です。

突飛な使い方ではないとは思うんですけども、こんな事例があるということの紹介でした。以上でございます。

【司 会】 ありがとうございました。

では、続いて最後ですね。これまでもありました動画の教材を作る方法ということで、松永先生のほうからお願ひをしたいと思います。

今ちょっと待っている間に、この後少しお時間があつたら御紹介しようと思っていたんですけども、今、私のカメラ、あと最初の学長、梅田先生、こちらの前でお話しされた先生方のカメラがミーティングオウルという遠隔授業と対面を組み合わせたハイフレックスの授業とかを行うときにはいいものになります。こちらは、ALプロジェクトのほうで貸出しを行っておりますので、ちょっとその御紹介を先にさせていただきたいと思います。

Aさん、聞こえていらっしゃいますでしょうか。

じゃあ、今同じミーティングオウルでALルームのほうに見えています。待機していらっしゃるので、そちらに振りたいと思います。よろしくお願ひします。

【A】 お願ひします。

アクティブ・ラーニングプロジェクトからお知らせです。

こちら教育交流館2階のALルームなんですが、今日はちょっとお時間をいただいて、ミーティングオウルを使って参加しています。

【B】 ミーティングオウルは、360度カメラとスピーカー、マイクが一体型となった会議用カメラです。TeamsやZoomなどを使った会議や遠隔授業などにお使いいただけます。遠隔授業なら、学生側にメリットがあります。

【C】 画面上部にこちらの参加者3名が映っていて、下に現在話している人の顔が大きく映っていると思います。最大4分割になります。

【A】 ミーティングオウルは、電源を入れて、パソコンにUSBでつなぐだけで使えます。詳しくは、ミーティングオウルをネットで検索してみてください。

【B】 御利用を御希望の方は、アクティブ・ラーニングプロジェクトホームページを御覧ください。

2台のミーティングオウルやiPad 60台などを貸出しています。

【C】 アクティブ・ラーニングプロジェクトの物品がALルームでお試しいただくこともできます。

【A】 アクティブ・ラーニングプロジェクトまたは教職キャリアセンター支援係へお問合せください。お時間をいただきありがとうございました。

【司 会】 今、教室にいらっしゃるんですけど、こちらになります。目が光る、これでクロウでミーティングオウルという名前になっているんですけども、上に360度のカメラがあって、全方向表示ができるもので、話している人とかにフォーカスが当たって、カメラが自動で切り替わるようなものになっていますので、非常に便利なものになっています。たくさんあるわけではないんですけども、もしも興味がある方がいらっしゃったら、ALプロジェクトのほうにまたお問合せください。お願ひいたします。

「動画作成の事例」

講師：松永 豊（情報教育講座）

本学 I C T を活用した遠隔授業の実際と検討、動画作成の事例について発表します。

情報教育講座の松永です。

今回の発表では、本学において、なるべく新しいソフトやデバイスを用意しなくても動画が作成できるという部分に重きを置いています。つまり、今回の発表で使うソフトが一番使い勝手が良いという意味ではありません。また、ありふれたソフトばかり使っているので、その方法なら知っている、という教員も多いかもしれません。どちらかといえば、動画作成は難しそうだったから、やったことがなかったけれど、これならば試してみようかなという人向けの内容になっていますので、ご了承ください。

では、PowerPoint を用いたナレーション作成をしてみたいと思います。今回の動画で使っている PowerPoint のバージョンは Microsoft office プロフェッショナルプラス 2019 になっています。これは Microsoft365、いわゆる office365 と同じものだと思ってもらえば大丈夫です。若干機能が制限されますけども、PowerPoint2016 でも核心の部分は使用できるとは思います。では PowerPoint のナレーション機能を使って動画を作成したいと思います。まず、スライドを作つておきます。で、このようなタイトルのスライドを作ったとしまして、2枚目はすでに先ほど登録しました。で、アニメーションが入っているのと、メモのところに文字を入れてあります。さて、動画作成のためにまず、スライドショー押しまして、スライドショーの記録というので、ナレーションおよびクリック操作などを記録していきます。現在のスライドから記録でオッケーです。そうしますと、PowerPoint の 2019 であれば、このような画面になります。古いやつの場合には、このあとやる記録のボタンを押した後の状態にいきなりなっちゃいますけども、今回は 2019 で説明をしたいと思います。この後、記録をするんですが、一応確認をしておきますと、2枚目の方は、アニメーションもついていて、なつかつノートもついていますので、2019 の場合にはこのノートも画面に表示できますので、あんまり長いとスクロールバーとか出ちゃいますけども、これも表示させて状態でやりたいと思います。ではここで記録をしていきます。録音をしていくということですね。ではやります。

(PowerPoint でスライドに音声を入れながら動画を作る操作を実際に紹介しながら)

動画作成の実験です。録音の実験です。PowerPoint のナレーション機能を使って録音を実験してみましょう。アニメーションの実験も兼ねています。ポチ。

以上で、ナレーションを使った録音、録画ができました。

この後、今作ったのを確認してみたいと思いますが、まずここにスピーカーみたいなマークが付いてますけども、これが音が入った証拠になっています。2枚目の方も入ってますね。これを普通にスライドショーで確認してみたいと思います。

(PowerPoint スライドショーの音声)

「動画作成の実験です。録音の実験です。PowerPoint のナレーション機能を使って録音を実験してみましょう。アニメーションの実験も兼ねています。ポチ。」

このように、ナレーションおよびクリックのタイミングが記録されており、スライドショーで自動的に再生されることがわかります。さて、これをすべての録音が出来ましたら、これを動画にしていきたいと思います。

まず、ファイルの「エクスポート」を選びまして、この中の「ビデオの作成」というのを選びます。画質を選べますけども、ここでは一番低画質を敢えて、標準のファイルのサイズに大きく差が出ますので、一番小さいので選びますけども、これは必要に応じて変えてもらえば構いません。このまま「ビデオの作成」をやりますと、ファイルネームを付けるこ

とが出来ますので、今回は「動画作成の実験」という名前で「MPEG-4」という形式の保存になっていますけど、このあたりはそのまま気にせずにOKを押してもらえば結構です。このまま保存を押します。そうしますと、今記録されて、まあ今回すごく動画短いのであつという間に終わりましたけど、長い動画の場合には、今の作業がそれなりにかかりますけれども、これで動画が作成されたという形になっています。今のファイルは「MP4」というファイルになりましたので、それをこの後の圧縮だとかアップだとかいう作業で使っていくことになります。

次は、パソコンの操作自体を録画する方法になります。デスクトップ全体を録画すれば良い場合には、T e a m sとかの録画機能を使うという方法もありますが、今回は部分的なある領域だけを録画するというものとしてPowerPointを用いたスクリーンキャプチャについて説明したいと思います。

では、コンピューター上の操作のキャプチャをやってみたいと思います。まず、PowerPointを立ち上げます。このPowerPointは動画のキャプチャのために使うだけなので、実際にはこれは動画を撮ってしまえばそれでおしまいというものになります。なので、タイトルとか何も特に書かなくてもいいんですけども、この中の挿入タブの中のメディアというタブの中に、画面録画っていうのがありますので、これを押します。そうしますと、こういう風に領域が選択できるようになりますんで、これで記録が出来るんですけども、何かここに見せたいというか記録をとりたい部分、この領域だけがゲット出来ますから、それを使うという前提になります。例えば、どんなソフトでもいいんですけど、電卓にしちまうか。電卓を操作しているところを、キャプチャしたいと、で、もう一度ちょっと領域選択をして、この領域だけがキャプチャできるというふうになります。で、録画をして操作をすると、その動作が記録されていくよということになります。まあ、やってみましょう。録画を押しまして、こんな感じで撮れるというので、記録がとれたらこれで停止と。これが動画として貼られたと。今回はPowerPointは今の動画を撮るのが目的だったんで、これをPowerPointとして使いたいんであればもちろん使ってもらって構いませんけども、欲しいのは動画だけだっていうことであれば、今、挿入された、今キャプチャしたやつですね、一応確認してもらえばここで動きが（録画した電卓の操作画面が再生される）。今を「メディアに名前を付けて保存」としますと、先ほどと同じようにMP4というファイルになりますので、これで保存してあげれば今の動画のシーンだけが保存出来たと。で、このPowerPointはそこまでのお仕事だけなんで、動画は出来ましたんで、動画自体は撮れましたんで、もうすでに動画は出来てるんで、これでよければおしまいという感じで終了してもらっても問題はないよということになります。

続いて、フォトを使った動画連結について説明します。これはフォトを使っているところのスナップショットになっています。まず、ビデオエディターのところで、Aのところに動画をドラッグアンドドロップします。その後その動画を、Bのところに必要なものだけ並べていきますと、この並んだ順番に動画が連結されることになります。Bではトリミングなども使うことが出来ます。完成したらビデオの完了を押しますと、ドッキングした動画が作成されることになります。

出来た動画はMicrosoftStreamにアップロードします。動画はトライックが大きくなるので、まなびネットにアップしてしまうとすぐに破綻してしまうので、学外の動画配信サービスで配信する必要があります。アップ前に圧縮すべきですが、それに関しては「まなびネットを使った教材配信・レポート提出の仕方」のところにある動画圧縮ツールを使うと便利です。それではStreamにアップしてみたいと思います。まずブラウザを立ち上げて、Streamっていうので検索してもらいますと、MicrosoftStreamっていうのが出てくるので、そのサインインをします。サインイン時間がかかるので、さつき既にしてあるところに今行きますが、まず、画像のアップロードを押してもらいまして、ここにアップロードしたいファイルをドラッグしていくことになると。で、先ほどのこの新しいビデオっていうのがドラッグしたいやつですから、あげてもらうとアップロードされていきます。で、このStream自体は、アップロードした画像はですね、基本的に学内関係者しか見れないんで、このままアップしてもらって特に問題はないんですが、完全に範囲を限定したいのであれば、アクセス許可のところで、メンバーを限定することも可能は可能です。今回はこのまま直接あげちゃいますけども、このまま公開してしまいますと、これで今のファイルが見れる状態になりました。で、マイコンテンツの方のビデオって

のを見てもらえれば、アップされたのが、過去の自分のプログラムの関係のやつとか、今この44秒ってやつ、これがアップされましたんで、これでOKですと。

Streamに動画がアップ出来たら、それをまなびネットと連携させます。基本的にはStreamの動画のリンクをまなびネットの方に貼るというそういう作業になります。まなびネットに直接動画をアップしないようにしなければいけません。では、まなびネット側の作業になります。これ、まあ既にまなびネットのページがもう開いていて、編集が出来る状態になっていますけども、こうタイトルに、活動を追加するっていうところでURLというのを選んでもらいまして追加、URLのタイトルは後で変えれますけども、「作成手順」な感じに書いて、ここで先ほどのリンクですね。リンクをコピーしたものを作り付けますと、そうしますと先ほどのStreamのリンクがくっつきましたんで、これで保存して。これで、今の作成手順、作成手順というタイトルがいいかどうかは別として、これを普通に選んでもらいますと、学生の方は先ほどのStreamのところに飛びますので、まあこういう感じで動画をまなびネット側の方に入れるということが出来るよということです。今のこのこれは何度も言ってますけどもリンクを貼っただけなんで、動画自体はまなびネット側の方にはアップされていませんから大丈夫なんですけども、直接ここにファイルをまなびネットに送るみたいな感じでMP4のファイルを送ってしまいますと、すぐにまなびネットがパンクしてしまいますので、それは動画だとちょっとまずいかなというそういう形になっています。

以上、動画作成について解説しました。基本的には身近なソフトだけで作成可能だということで、特に新しく何かインストールするとかいう必要もありませんので、これぐらいならやってみようかなという人は試してみるといいかなと思います。あと話途中でも出てきましたけども、デスクトップ全体をキャプチャするということで良いのであれば、TeamsとかZoomの録画機能を使って全体をキャプチャしてしまうというそういう方法もあるかなというふうに思います。他にも色々なもっと使いやすいソフトなどもあると思いますけれども、今回は身近なものでというふうなのを意識して解説してみました。

【司会】 ありがとうございました。

最後、質疑応答の時間を、予定より少し押しておりますので、二、三分ほど取りたいと思いますが、フロアの方でもしお聞きになりたい方がいたら、挙手でお願いします。もし、Teamsのほうで参加いただいている先生で質問をしたいという方は、Teamsのチャットのところに書いていただけるとよいかと思います。

では、御質問などある方、いらっしゃいましたらお願いします。

質疑応答部分については個人情報を含むため削除

中西先生のほうから、最後、閉会の挨拶をいただきたいと思います。

中西先生、よろしくお願ひします。

【中西宏文氏】 こんなにちは。聞こえていますでしょうか。

【司会】 はい、聞こえています。

【中西宏文氏】 今日は、皆さん今回FDに御参加いただきまして、どうもありがとうございます。

今回は遠隔授業に関するということで、私もあえてというわけではありませんけど遠隔で参加しましたが、全く会場にいる皆さんとコミュニケーションに関しては可能ですし、こういったテレビ会議システムも使い方次第だなということを感じました。

全体のまとめも簡単にしておいたほうがいいと思いますので、今回、今までこういう機会が、今年遠隔授業が始まってから一度も設けられなかったのが、今回設けられたというのは、非常によい機会になったのではないかと思います。

アンケートに関しても、前から公開はしていただいていたと思うんですけども、結構内容も見たことのない教員の方

が多かったと思いますので、アンケート結果も参考に、例えば動画や音声なしのオンデマンドは満足度が低かったとか、その辺を参考にしてやっていただけたらなと思います。

それから、学生のほうも課題が多過ぎるという声がありましたけれども、この辺に関しては、学生さんのほうも授業というのは90分だけで終わるものじゃないんだよということの理解が足りないと言うと失礼ですけれども、今までの授業がそれで済んでしまっていて、今回に関しては、90分の授業のために、その前後に別の時間が必要だったために、本来の単位数に従った学習時間を取らされて学生がふうふう言っていたという面もあるんじゃないかなというふうには思いました。

今回、Teamsなどもそうですけれども、私も遠隔授業が始まっていることで、Teamsは初めて使いましたし、ICT教育基盤センターのスタッフ、主に情報教育講座の教員ですら非常に不慣れで試行錯誤しながらやったといった面もありましたので、後期の授業が終わって、次、来年の前期が始まるまでの間にGOTオキャンペーンをやるんじやなくて、我々の場合は少しでも来年度の遠隔授業がスムーズに進むような施策を何かしておくと良いのではないかというふうに思います。

今回、まなびネットに関しては、知らない方が多かったのではないかと思いますが、梅田先生のほうから動画で説明していただいて、この動画をもっと早く公開してくれればよかったんじゃないかなと思ってる方もいると思います。構成パソコンの操作に関しては、資料よりもこういった動画をちょっと見れば割と分かって、やる気になるといった面もあると思いますので、梅田先生のこのビデオTeamsで録画していると思いますので、また公開してほかの先生方に見ていただけたらなと思います。

それから、Teamsのほうは、まなびネットほど機能がない分、逆にシンプルに使えると思いますので、まなびネットの機能はとても使いこなせないやという先生方は、まずはTeamsのほうを使っていただければなというふうに思います。Teamsのほうはシンプルですけれども、テレビ会議の連携ですとか、ゼミなどには適しているかなというふうに思いました。

それから、ICT教育基盤センターとしてのお願いと野田学長にもお願いですけれども、今回、遠隔授業が始まっていますが、結構大学と外部との回線がかなりきつくなつたなあというようなことは思います。皆さんにお願いしたいのは、Teamsとまなびネットですね。それぞれサーバーがどこに置かれているのかということを、ちょっと一度意識してほしいなどあります。

TeamsやStreamというのは、マイクロソフトのサービスですので、サーバーが大学外にあります。それに対して、まなびネットのほうのサーバーは大学内にありますので、その大学外と大学内の間が使われているのが1ギガビットパーセカンドという、光ファイバーの家庭でサービスを受けているような同程度の最大の回線容量しかありませんので、そこを勘違いして、例えばまなびネットに動画を置いてしまった先生がいたりして、それを学生が見たりすると、それだけでも1ギガの貴重な回線が動画1本分で取られてしまうといったことがあります。

それから、今年度の前期に関しては、全部遠隔だったのでよかったんですが、後期に関しては遠隔の場合のオンデマンドを原則で、来年度も遠隔の場合はオンデマンド基本という形に決まっているかと思いますけれども、やはり若干ビデオ会議とかで、その場で質問できる機会があつたらしたほうがいいと思うので、授業の一部分でもそういうオンデマンドというと、いつやっても良いということですが、その授業時間内にやるということによって、学生がその時間に授業に取り組むということとも、身につけさせられると思いますので、そういうことから円滑にいくように曜日分けというのは難しいと思いますので、例えば大学に来ていて、遠隔授業に参加するといったようなことをスムーズに行うためにも教室の確保とか、サーバーの場所によって問題が起きないように回線を、今は10Gというふうによく言っていますけれども、10倍の速度に上げる予算を文科省がつけていただけると良いんですけども、その点が実現できれば、さらにスムーズに進むんではないかと思います。

今回は、基盤センターとしても特に前期のほうは我々教員も自分の授業の方で結構あっぷあっぷだったと思いますので、十分サポートが行き届かなかったかと思いますけれども、ふだんよりは若干時間が取れるこの2月、3月に次の4月からの遠隔授業の対応を、皆さんのはうもぜひ時間をつくって、しっかりやっていただければなと思います。

これで一応まとめの挨拶とさせていただきます。どうも皆さん、ありがとうございました。

【司会】 中西先生、ありがとうございました。

では、以上で本日のFDのほうを終わりにしたいと思います。御参加いただいた先生方、ありがとうございました。

「遠隔授業のアンケートの報告結果」

AXIES2020 2020/12/1

愛知教育大学 遠隔教育の 実態把握のための調査

江島 徹郎(愛知教育大学), 松永 豊(愛知教育大学)

梅田 恭子(愛知教育大学), 斎藤 ひとみ(愛知教育大学),

砂川 誠司(愛知教育大学)

山田 初美(愛知教育大学/NTTラーニングシステムズ(株))



Aichi University of Education

目的

○【4月22日更新】新型コロナウイルス感染症への本学の対応について(注意喚起)(第14報)

更新お知らせ
・4月22日 12:00 更新
...
この度、学生会議員の「入り規則の維持について」の内容の一部を修正しました。

令和2年4月21日

各 位

危機管理室長(理事(庶務・財務担当))
後藤 誠明

新型コロナウイルス感染症への本学の対応について(注意喚起)(第14報)

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、愛知県が「緊急事態宣言」の対象地域となり、「特設警戒封鎖府県」にも位置づけられました。
学生・教職員の皆様は、以下に留意し、引き続き、感染拡大防止に努めてください。

● 1. 学生・教職員の方へ

- ・ 症状に付ける詳記は常識として理解しておいてください。感染していても無症状の方がおり、無意識に感染を止めてしまう可能性が十分考えられますので、行動に注意してください。
- ・ 喫煙などの風邪の症状がある場合は、必ず等で待機して安静にしてください。感染拡大の防止にもつながる大切な行為です。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の疑いがある場合は、後述の「新型コロナウイルス感染症の疑いがある場合」行動マニュアルに基づき、大学に連絡してください。

● 2. 今後について

I. 授業開講時期について

学部・大学院・特別支援教育特別選択科の授業
・ 4月20日(火)から5月10日(水)までの間の出校を伴わない「遠隔授業」のみにより運営を実施する予定です。

指揮官に関する詳記は常識として理解しておいてください。学生の皆さんは、常識として理解しておける程度を定期的に確認するなどして、自己からの遠隔授業が可能な通信環境を構築しているかどうかの確認をしていてください。

【新型コロナウイルス感染症の影響による遅延開講について】

新型コロナウイルス感染症の影響による遅延開講は、学生が自宅等において遠隔授業等を活用して学習を行なうための通信環境の確保に向け、経営者の電気通信事業者においては、携帯電話の通話料金を半額に設定するなど、特別な措置を取っています。また、携帯電話が可能な学生は、携帯電話を購入している学生の皆さんへ、重要な事業者とのホームページにより内容を確認し、必要に応じて手続きを行なうようしてください。

AXIES2020 2020/12/1



愛知教育大学は、2020年度の前期の授業について、



Aichi University of Education

目的

AXIES2020 2020/12/1

まなびネット 第2E ラーニングサイト 日本語 (ja) 江島 翁郎

2020-MS教育情報化概論-江島 ダッシュボード /マイコース / 2020-MS教育情報化概論-江島

オリエンテーション(4月30日)

メディアとは何か? (5月7日)

人の情報処理(5月14日)

教育の情報化(5月21日)

情報教育(5月28日)

デジタルメディア(6月4日)

情報社会とメディア (6月11日)

やってみよう! 検索エンジンクイズ(6月18日)

片手でいくつまで数えられますか?

ネガティブハンド(動画)

Aichi University of Education

レジュメ等の印刷

印刷頻度	割合
毎回印刷している	340
ときどき印刷している	428
あまり印刷していない	138
ほとんど印刷していない	202

AXIES2020 2020/12/1

毎回または時々印刷をしている学生が7割程度。

Aichi University of Education

受講している遠隔授業の数・形態

授業形態	平均
前期非開講	0.13
メール等の課題	0.92
ウェブ会議	1.84
オンデマンド(動画・音声なし)	4.42
オンデマンド(動画・音声あり)	5.78

- ・オンデマンド型が基本
- ・一部の実習を伴う授業等が非開講

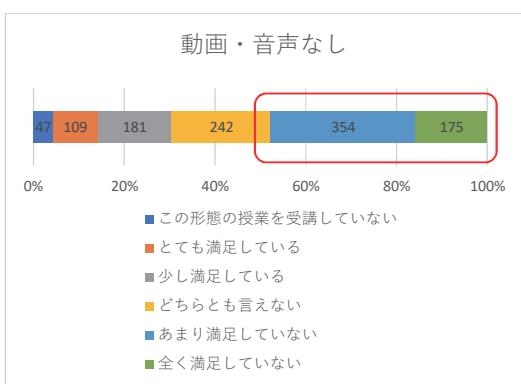
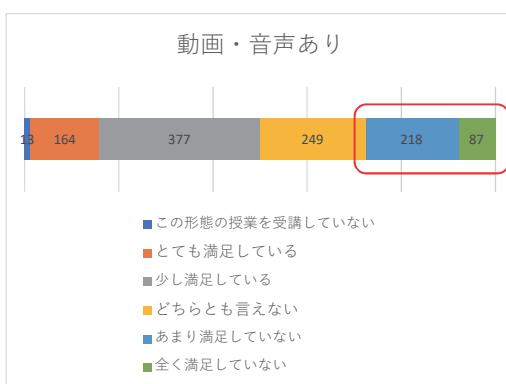


実習を伴う授業が非開講で後期へ。



Aichi University of Education

オンデマンド（動画・音声ありとなし）



動画や音声なしの場合の満足度が低い。



Aichi University of Education

同時双向型とメールによる課題指示

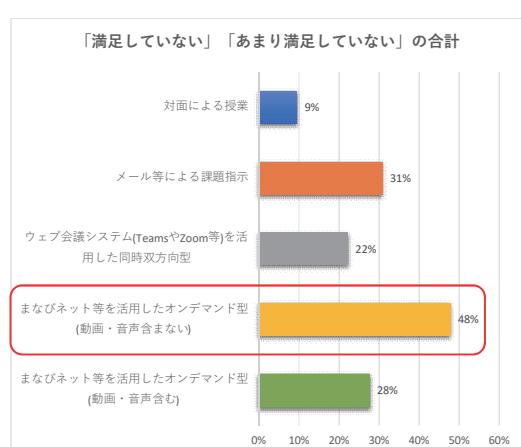
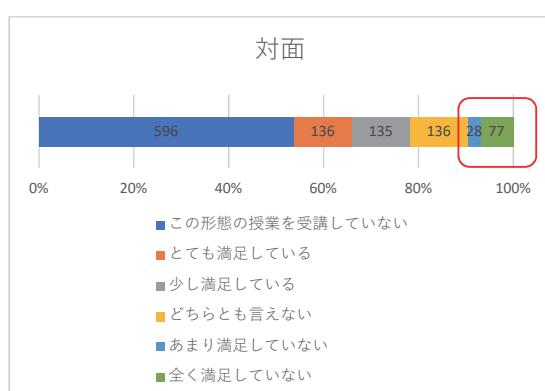


満足度はそれほど変わりはない。



Aichi University of Education

対面と形式のまとめ



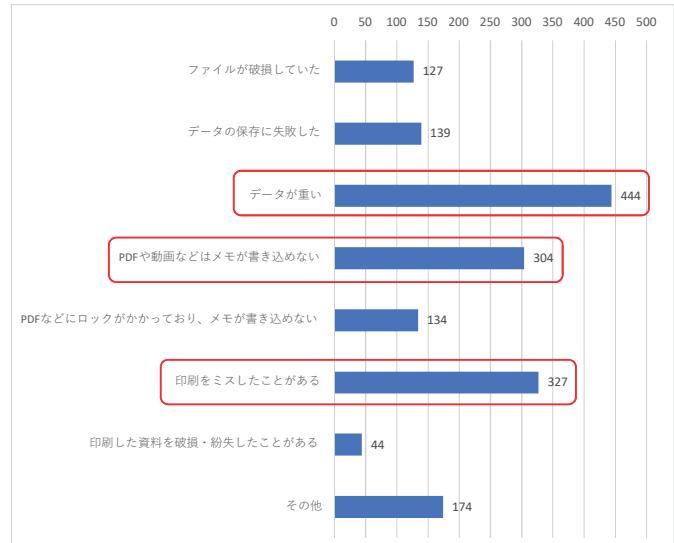
もっとも満足度が低い。メール等よりも低い。



Aichi University of Education

資料で困っていること

データが重い
印刷ミス
メモが書き込めない



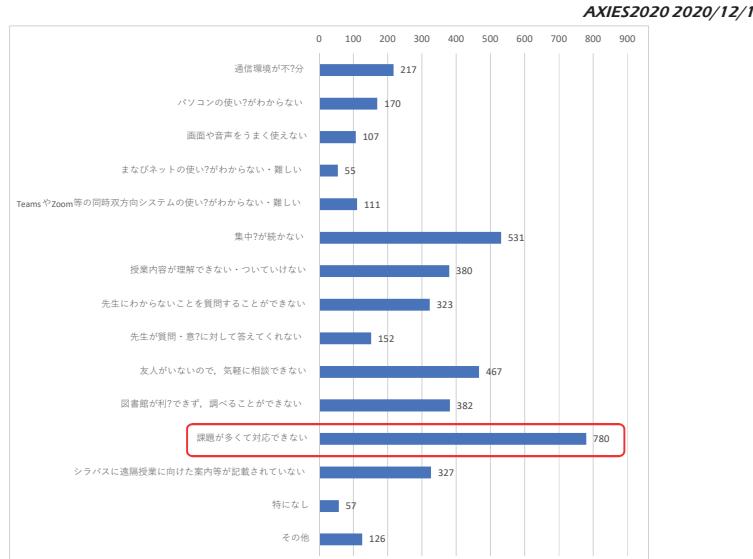
印刷ミス、メモが書き込めない等が多くかった。



Aichi University of Education

遠隔授業で困っていること

課題が多くて対応できない
集中力が続かない
使い方等が分からず学生は少なかった

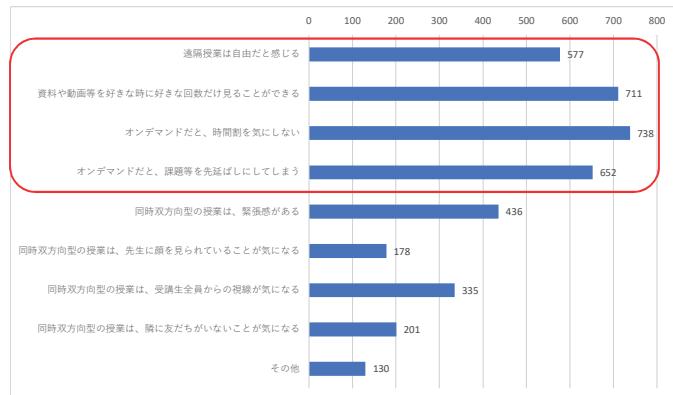


自由記述でも課題の多さに強い言及が多い。



Aichi University of Education

遠隔授業の感想

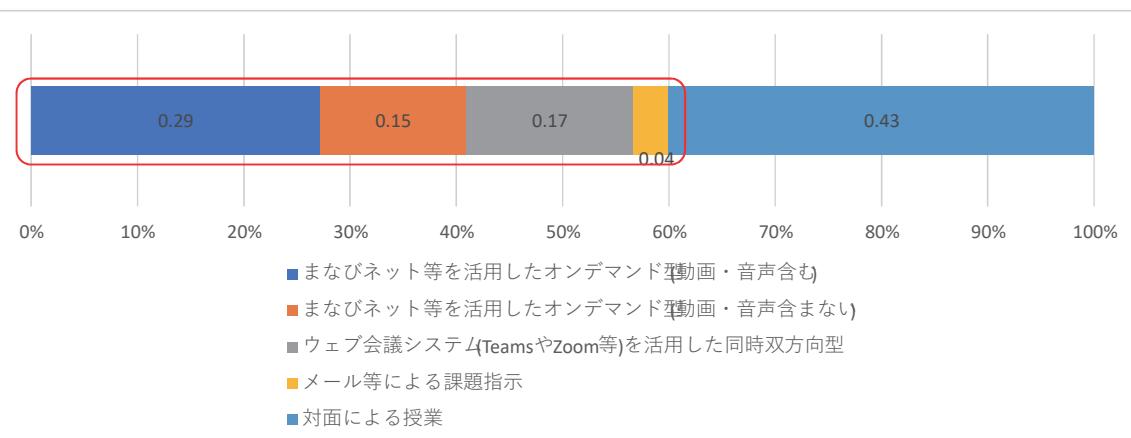


自由だと感じる。



Aichi University of Education

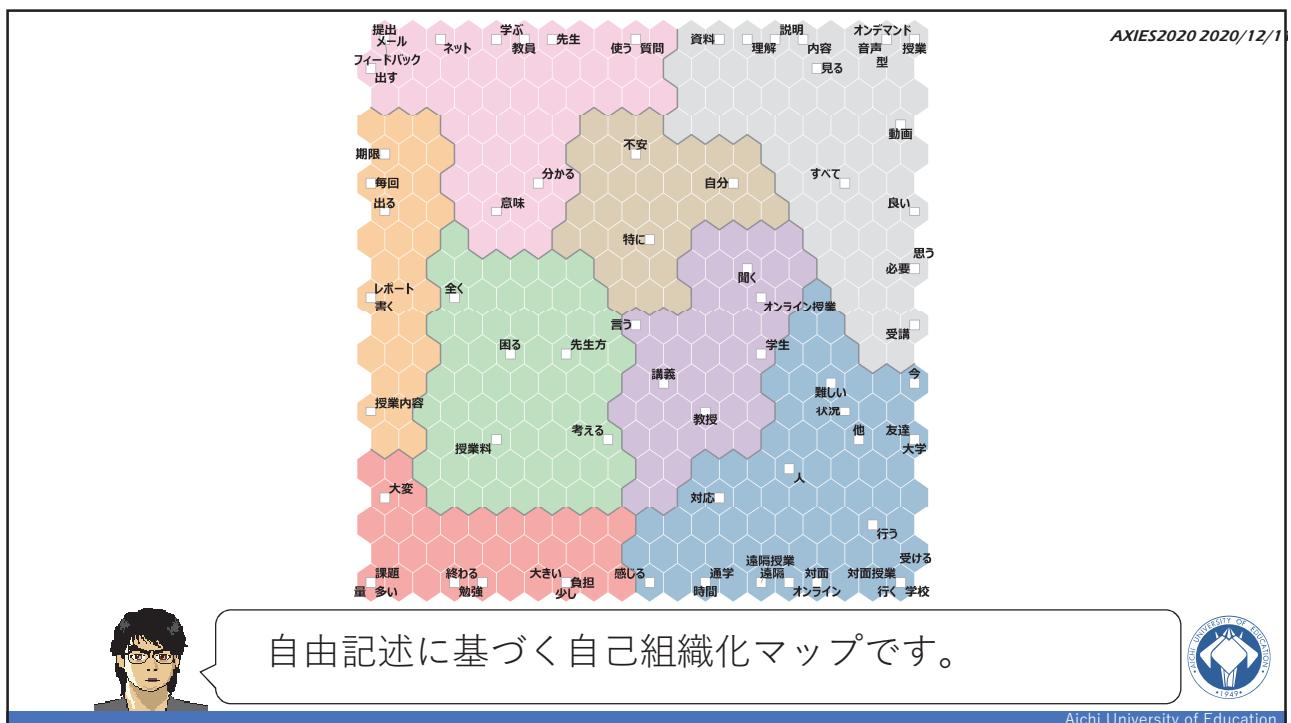
遠隔授業と対面授業の最適な割合



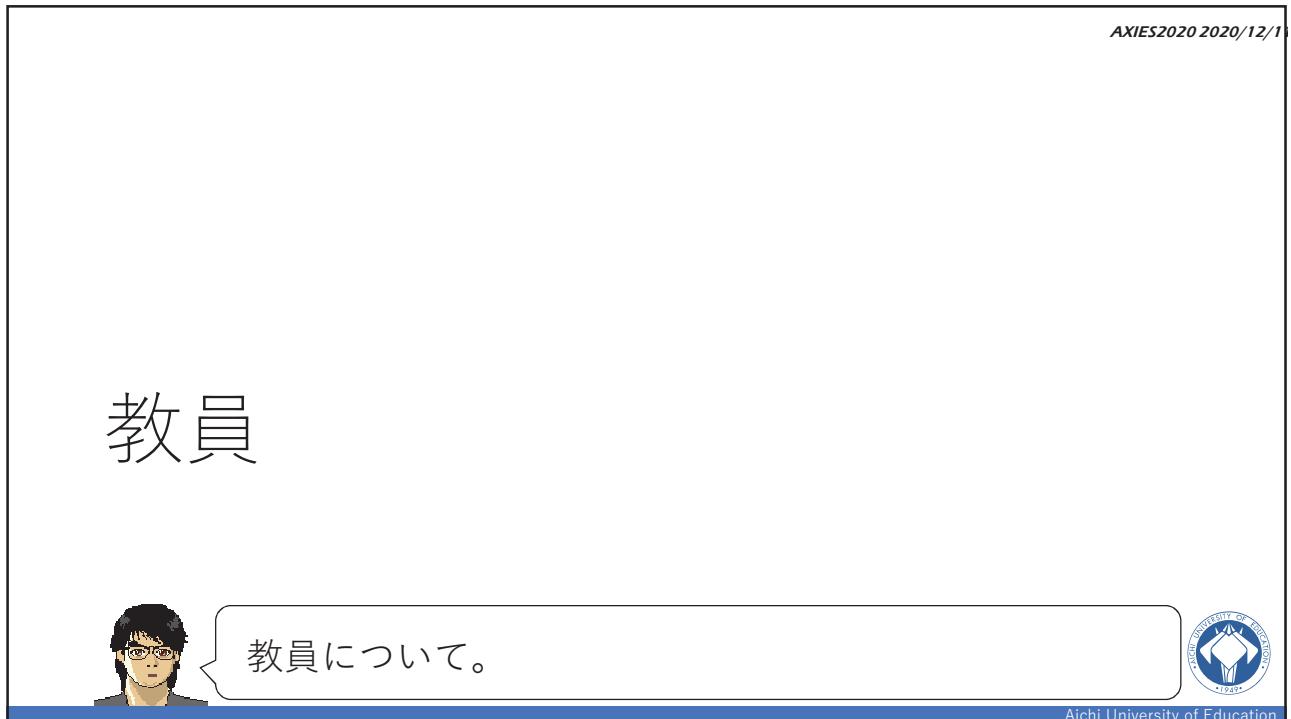
上級生の方が、若干遠隔授業の割合が高くなる。



Aichi University of Education

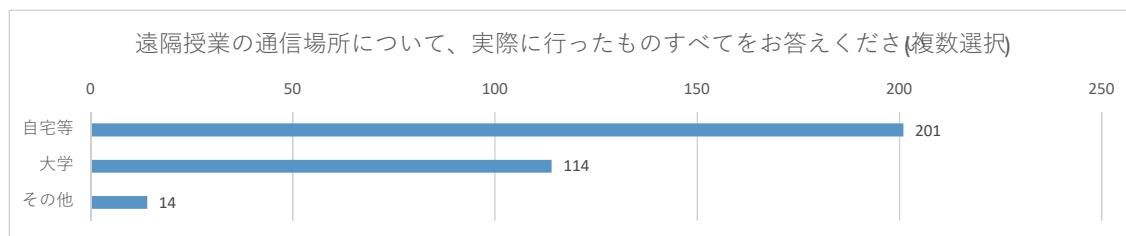


教員



結果の概要

- 対象人数 1,454人
- 回答人数 225人



在宅勤務が原則だが、出校した教員も多い。

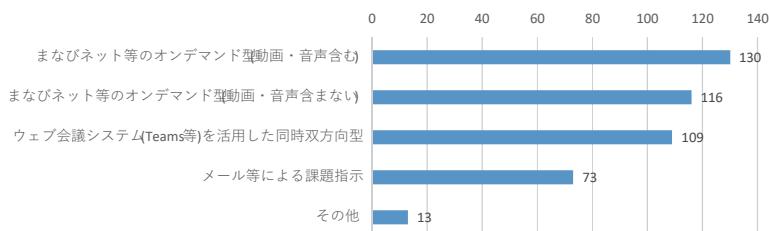


Aichi University of Education

遠隔授業の通信環境について、実際に行ったものすべてをお答えください(複数選択)



遠隔授業の実施形態について、実際に行ったものすべてをお答えください(複数選択)

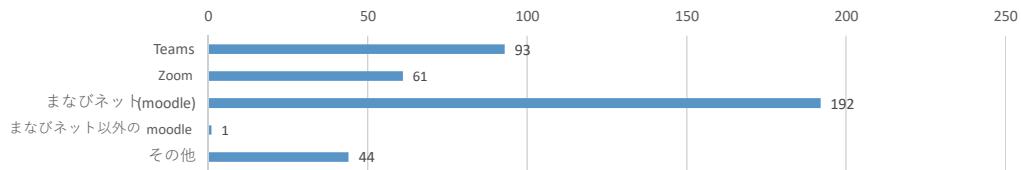


動画や音声を含まないものも多い。

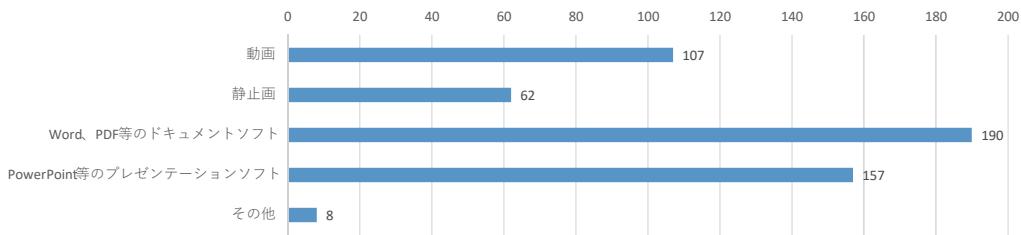


Aichi University of Education

遠隔授業の配信ツールについて、実際に行ったものすべてをお答えください (複数選択)



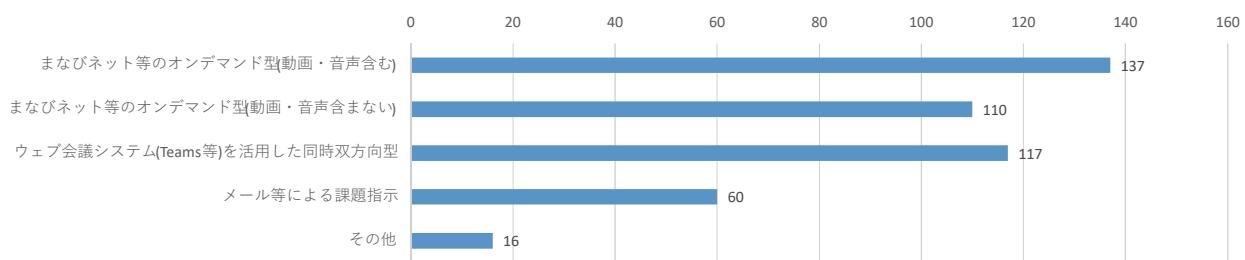
遠隔授業の教材作成の方法について、実際に行ったものすべてをお答えください (複数選択)



続いてPowerPointが多かった。



遠隔授業の実施形態について、今後も行っていきたいとお考えのものをすべてお答えください(複数選択)



同時双方向型が続く。



考察とまとめ



考察とまとめです。



Aichi University of Education

マニュアルや支援体制

まなびネットの使い方 [教員向け・簡単編]

目次	
はじめに	2
1. 素晴らしいこと	2
1. 1. フォーマット	3
1. 2. テキストの入力	3
1. 3. 插入メニュー	4
1. 4. 編集メニュー	5
1. 5. 削除選択メニュー	6
1. 6. フォント選択メニュー	6
2. 課題提出	10
2. 1. 課題（ファイル）を提出	10
2. 2. 課題（リンク）を提出する	11
2. 3. 課題を訂正	12
2. 4. 課題提出	13
2. 5. 1. 選択した課題をアップする	13
2. 6. リロード	13
2. 7. ...	13

ICT教育支援センター ICT教育支援部門

2020年8月

FD活動開催申請書

題名	本学のICTを活用した授業改善の実践と検討	
開催日時	2020年 1月 27日 (火) 13時	
開催場所	本学(本館講堂)または会議室(どちらかがんばって)	
場所 (会議室でなければ、会議室名)	会議室名	会議室番号
担当者	(会議室名がある場合は、その名)	
申請登録番号 (ID登録されてない場合は、ID登録して下さい)		
内 容	・本学のICTを活用した授業改善・・実践改善の実験 ・実験のノウハウの共有・・実験結果の発表 ・実験結果の評議・・実験結果の活用	
備考	ICT教育支援センター ICT教育支援部門	

氏名	江島和也	
所属	教育セイバーンズ講師、ICT教育支援センター	
電話	052-90-2356	
メールアドレス	takashi.echimura.aichi-u.ac.jp	
申請登録番号 (ID登録されて下さい)		

説明文
説明文には、説明文を書く場合はお書きください。
説明文を書く場合は、メールアドレス : aichi-u.edu.aichi-u.ac.jp

メールアドレサムを使った登録への選択
 その他 ()



FDも計画中。



Aichi University of Education

教材

The screenshot shows a learning management system interface. On the left, there is a sidebar with various course categories and their due dates. The main area displays a game-based learning activity titled "ゲーム大会を開こう！！" (Let's host a game competition!!) on a blackboard. Below the board, there is a cartoon character and the text "レイム、今回の課題の発表を！" (Raymu, present the assignment!).

The screenshot shows a Microsoft PowerPoint slide titled "教科指導におけるICT活用" (ICT application in teaching). The slide is divided into three columns: "一斉学習" (Synchronous learning), "個別学習" (Individual learning), and "協働学習" (Collaborative learning). Each column contains text and images illustrating its purpose. The "個別学習" column includes a video thumbnail of students working individually at computers.



学生の評価はあまり良くない。



Aichi University of Education

ログと課題

The screenshot shows a learning management system interface displaying a log of user activities. The log lists various events such as viewing course descriptions, viewing user profiles, and updating course completion status. The log table includes columns for date, time, user ID, action, and details.



学生は課題の多さを訴えた。



Aichi University of Education

・学生の自由記述より

- ・課題が異常に多い
- ・課題の量が正直おおすぎて対処できない
- ・課題やらせといたらいいと思われてる先生方が多い
- ・課題についてのフィードバックが何もない
- ・課題提出による出欠確認が多い

今後の課題

- 学生は、教員程には困っていない？
- 1年生と上級生で差がないのはなぜか？



1年生と上級生で差がないのはなぜか？



Aichi University of Education

謝辞

- 本調査は、大阪教育大学が2020年5月に実施した「インターネットを活用した授業期間中の学習・生活調査」より多くの示唆を得ています。



より多くの示唆を得ています。



Aichi University of Education

おわりに

・ご清聴ありがとうございました。

- 参考文献

- 江島徹郎・山坂菜々、BYODのICTを活用した「対話的な学び」への試み、教育ガバナンス研究 3、15 - 23、2020.
- 小田奈緒美・浅野卓司・江島徹郎・小谷健司・高橋岳之、大学間連携によるICTを活用した協働的学びの実践と検討、愛知教育大学教職キャリアセンター紀要、1、93 – 100、2016
- 江島徹郎・梅田恭子・野崎浩成、e-Learningシステム「かきつばた」による授業の実践、愛知教育大学教育実践総合センター紀要、10、91 – 96、2007



ご清聴ありがとうございました。



Aichi University of Education

発表スライド

「動画作成の事例」

【FD】本学のICTを活用した遠隔授業の実際と検討 -動画作成の事例-

2021-01-27
情報教育講座 松永 豊

今回の主な内容

- PowerPointを用いたナレーション作成
- PowerPointを用いたスクリーンキャプチャ
- フォトを使った動画連結
- Streamによる動画配信サービス
- 学びネットとの連携

今回の主な内容

- PowerPointを用いたナレーション作成
- PowerPointを用いたスクリーンキャプチャ
- フォトを使った動画連結
- Streamによる動画配信サービス
- 学びネットとの連携

今回の主な内容

Microsoft Office Professional Plus 2019

- PowerPointを用いたナレーション作成
- PowerPointを用いたスクリーンキャプチャ
- フォトを使った動画連結
- Streamによる動画配信サービス
- 学びネットとの連携

動画作成の実験

録音の実験

- 録音の実験です
- アニメーションも実験してみましょう
- タイミングが記録されています

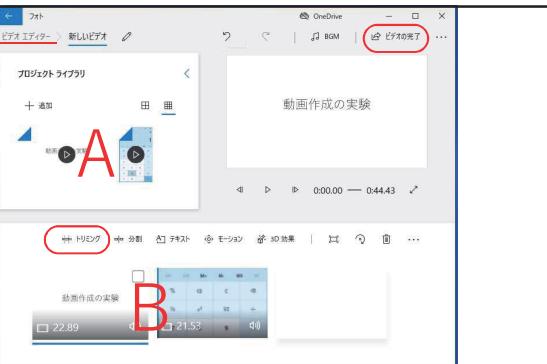
今回の主な内容

Microsoft Office Professional Plus 2019

- PowerPointを用いたナレーション作成
- **PowerPointを用いたスクリーンキャプチャ**
- フォトを使った動画連結
- Streamによる動画配信サービス
- 学びネットとの連携

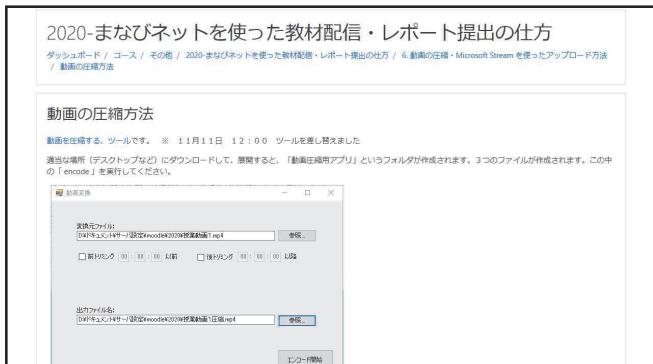
今回の主な内容

- PowerPointを用いたナレーション作成
- PowerPointを用いたスクリーンキャプチャ
- **フォトを使った動画連結**
- Streamによる動画配信サービス
- 学びネットとの連携



今回の主な内容

- PowerPointを用いたナレーション作成
- PowerPointを用いたスクリーンキャプチャ
- フォトを使った動画連結
- **Streamによる動画配信サービス**
- 学びネットとの連携



今回の主な内容

- PowerPointを用いたナレーション作成
- PowerPointを用いたスクリーンキャプチャ
- フォトを使った動画連結
- **Streamによる動画配信サービス**
- 学びネットとの連携

今回の主な内容

- PowerPointを用いたナレーション作成
- PowerPointを用いたスクリーンキャプチャ
- フォトを使った動画連結
- Streamによる動画配信サービス
- 学びネットとの連携

おわりに

- 身近なソフトだけで動画作成は可能
- TeamsやZoomでデスクトップ全体をキャプチャしてしまう方法もある